

花祭ダイジェスト版について

河内花祭保存会（12時50分～・約50分）

湯の舞（榊）

「湯の舞」は幼い子どもたちが一番最初に花祭に関わる舞で、その後、三つ舞、四つ舞、鬼の舞へと段階を踏んで成長していきます。湯の舞は持ち物によって扇、盆、湯桶、鍬、榊などがあり、30分から45分舞い続けます。今回披露する「榊」は、赤い着物と袴に白衣をまとい、頭には赤いはちまきに花笠をかぶり、鈴と榊を持って舞います。



地固め太刀

地固めは、舞庭を踏み固め、清めるといったとても大事な舞で、二人の青年が上着にたっつけ、赤いたすきを掛け、白はちまき姿で「鈴」と「太刀」を持って勇壮に舞います。最初は三拍子の舞ではじまり、二拍子の舞へと移っていきます。本祭では、1時間近くの舞ですが、東栄フェスティバルでは10分程度にまとめたダイジェスト版としてご覧ください。



大蛇退治

榊を持った須佐之男命が、釜の周りをまわっていると、大蛇に見立てた獅子が現れ、これを退治するという神話に基づいた舞です。狩衣風の羽織、袴に赤いたすきを掛け、足袋に草履を履き、首に勾玉を下げた出で立ちの須佐之男命は、大蛇を退治するために釜の中の酒を飲ませるように誘い出し、酔い潰れたところを剣でとどめを刺し、腹の中から「草薙の剣」を取り出します。



足込花祭保存会（15時35分～・約50分）

花の舞（扇）

別名「稚児の舞」ともいって花笠をかぶって3歳から小学校低学年の子どもが「扇」「盆」「湯桶」を手に持って舞います。今回は、「扇」の舞を披露していただきます。舞子は、まず手に花笠を持って舞い、その後花笠をかぶり、扇を持って舞います。かわいらしい子どもたちの舞をご覧ください。



榊鬼

最も重要視される役鬼です。榊様とも呼ばれます。反閼（ヘンベ）というしぐさは大地を踏みしめ、冬に地中へ沈み込んだ精霊を呼び起こし、自然の恵みや五穀豊穡をもたらす舞です。かわいい子ども鬼も出てきます。また途中で、改め役との問答も行われます。巨大なまさかりを持って舞う足込の榊鬼は壮観です。



湯ばやし

この舞は最も軽快なテンポの舞で、少年4人が藁を束ねて作った「湯たぶさ」と言うタワシを持って舞い、舞の終盤、釜の湯を所構わずに振り掛けます。そのために舞庭も見物人もビタビタに濡れますが、この湯は「生まれ清まりの産湯」ともいわれ、この湯を浴びると病にかからないと、村人に歓迎されています。



【ご来場の皆様へ】

体調に不安のある方、発熱や風邪等の諸症状の自覚がある方、ご家族に症状がある方は、イベントへの来場をご遠慮ください。



問合せ先▶経済課 ☎76-1812

イベントの詳細については、右記の二次元バーコードからご覧いただけます。

